法人だより たまふく

今号の目次

1p　もう１人の保育士を
2･3p　保育士１年生どうでしたか
4･5p　第９回法人合同研究集会
6･7p　しろくま保育園開園！
8p 学童連載第３回
「新年度がはじまりました」

もう1人の保育士を

理事　田川　英信

私の下の娘は保育士をしていた。今は、保育士を辞めて民間会社で営業の仕事をしている。娘は「保育事故を防ぐため、緊張の連続で日々が辛かった。営業の方が精神的にも楽だし、給与も全然違う」と娘は言う。確かに、娘はいつもぐったりと疲れていたし、持ち帰り残業もしていた。

ご存じの方も多いだろうが、日本の保育士の配置基準は世界的にみても劣悪である。1、2歳児は子ども6人に保育士が1人。これは50年以上も変わっていない。また、4、5歳児の配置基準（子ども30人に保育士1人）は74年間も変わらず放置されてきた。

必要性に迫られた自治体は、独自に保育士の上乗せをしてきた。特に東京都の区部では、都と区の独自加算で国基準の倍ほどの職員配置となっている。それでも、保育士の労働環境は厳しい。

加えて賃金水準も低い。専門性の高い女性保育士の全国平均賃金が月30万2000円。ところが、全産業平均では月35万2000円。どうして保育士が5万円も低いのかというと、国が賃金単価を低く設定していることが一因である。以前は、保母と呼ばれていた通り、女性の仕事とみられていたこと。そして、子育てなど誰でもやっている、保育に専門性などない、などと考えているのだろう。

また、非正規雇用の問題にも注目したい。保育士にも非正規雇用が多い。保育士や、さらに言えば福祉労働者の劣悪な就労状態を早く改善することが求められているのではないか。

今、愛知の保育関係者が発起人になり、保育士配置基準の改善を求める運動が話題になっている。「子どもたちにもう1人保育士を！」として、公私の保育者の労働組合や保育運動団体、保護者などが実行委員会を立ち上げ、さまざまな発信を続けているのである。

ようやく、こども家庭庁は2024年度の保育関係予算について、1歳児及び4・5歳児の職員配置基準について1歳児は「子ども6人に保育士1人」から「5人に1人」へ、4・5歳児は「子ども30人に1人」から「25人に1人」に改善するという概算要求をした。しかし、実際に実現したのは4、5歳児の保育士の配置基準のみである。

このように国の動きが遅いのは、財政的な見通しが立たないからという。しかし、5年で43兆円という一般人にはその規模の大きさが想像もできないほどの巨額が軍事費（防衛費）に使われる。その軍事予算については、財政的な見通しなど云々されずに進められた。他方、社会保障や教育についての予算増を求めると、とたんに財政的な見通しなどとして否定する。こんな政治で良いのだろうか。私たちは、もっと怒って良い。ふざけるな！と叫んで良い。そう考えている。

連 絡 先
〒155-0031
東京都世田谷区北沢 2-36-9-4F
社会福祉法人多摩福祉会
法人事務局
◆Tel.　03-6804-8345
◆Fax.　03-6804-8347
tamafukushikai@gmail.com

「たまふく」の
ご感想を
お聞かせください。

社会福祉法人 多摩福祉会

保育士1年生どうでしたか？

安心できる存在に

上北沢こぐま保育園　保育士

昨年4月にこの保育園に入職し、0歳児クラスを担当することになった。子どもは10人、保育士は6人、そのうち担任は4人で保育を行うことになった。

保育士1年目は不安なことが多くあった。「自分なんかができるのか」「子どもたちをかわいいと思えるのか」「ケガをさせてしまったらどうしよう」と不安な気持ちを抱えたまま仕事が始まった。最初はなんて声をかけたらいいのか分からず見つめるだけのこともあったが、外に慣れるためにウッドデッキにでて風を浴びたり、大きいタライに水を張ってプールをしたり、手形アートをやったりと活動を一緒にするにつれて子どもたちとのコミュニケーションも増えていった。その時間が楽しく、子どもたちの笑顔を見ると自分が安心できる存在になれているように感じられて嬉しかった。

秋には園庭に出て遊んだ。初めての園庭、いつもは2階から見ているだけだったが実際に行ってみると緊張した顔をする子がたくさんいた。そんな時子どもたちは担当保育士の腕を掴んだり、手を握って一緒に歩いたりする姿が見られた。徐々に探索活動を広げていき、園外の公園にもお散歩に行くようになった。4月や5月、6月の頃は1日のほとんどを泣いて過ごしたり、ウッドデッキに出るとすぐに遠くに行ってしまったり、じっと周りを見て動かない子もいたりしたが、公園ではそれぞれが好きな遊びを見つけて遊んでいて、この数ヶ月で色々なことを経験して成長したんだなと感じた。

来年はもう異年齢のクラスに入る。どんなところか楽しみでワクワクしている子もいれば、きっと不安でドキドキしている子もいる。お部屋は離れても子どもたちとは保育園の中で会うことができる。異年齢のクラスにいったその姿を見ることが楽しみでもあり、少し寂しい気持ちでもある。陰ながらそっと応援していきたい。

新　人　さ　ん　に　聞　き　ま　し　た

上くまＧＯ！ＧＯ！

上北沢こぐま保育園　保育士

２０２３年４月から上北沢こぐま保育園に勤めて、１年が経ちました。とても早く、濃厚な時間でした。日々の保育は楽しく、やりがいのあるものですが、悩みは尽きません。しかし失敗をしたり、子どもとの関わり方で壁にぶつかったりした時に支えてくれる「同期」という存在が私には５人もいます。

初めて会った時は、１人としか話せず、「仲良くなれるかな」と不安な気持ちがありました。北海道から上京する私にとって、同期が一番近い存在になると思ったからです。けれど、そんな不安はすぐに消えました。社会人一年目、同じ環境で働く者同士、仲良くなるのに時間はかかりませんでした。同期会を開催するまでになるには時間がかかりましたが、休憩中や仕事が終わった後に仕事での悩みや、その日あった子ども達のかわいい瞬間を話すだけでも、私にとっては心を整理する時間になったのです。

誰かに自分の話を聞いてもらえること、「私も同じことで悩むよ」と共感してもらえることが、これほど安心するもので、救われるものか、と何度も思いました。「きっと保育者に気持ちを受け止めてもらう子ども達もこんな気持ちなのか」と、図らずも子ども達の気持ちを体験することもできました。

また同期というのは、尊敬できるという点でも私にとっては特別な存在です。クラスの先生をはじめ、多くの先輩方の保育を目の当たりにしてきて、尊敬する部分はもちろんたくさんあるのですが、「将来、自分はこんな視点を持って関わることができるのだろうか」とマイナスに捉えてしまうことも多々あります。しかし、同期は同期だからこそ、素直に「同期のここがすごい！」と思えるし、それを相手に伝えられるのです。例えば、担当の子どもが大好きで常に子どものことを考えて気を遣える同期、また子どもと同じ視点に立ち、子どもをしっかりと認めることができている同期がいます。自分の意見をしっかりと持っていて、先を見通して物事を考えられる同期もいれば、専門的な知識で支えてくれる同期もいます。誇りに思うと同時に、私も同期の良いところを見習っていこうという気持ちになります。より良い保育を目指していくのに、とても大切な存在になっています。

すぐ近くに尊敬も相談もできる仲間がいることは、保育士としても、一人の人間としてもありがたいことです。保育士として子どものことを一番に考えて、子どもの豊かな成長を支えていけるように日々努めています。しかしそれと同時に「自分自身も大切にしなくては」と思えるのは、側で話を聞いて、褒めて、受け止めてくれる同期の存在があってのことです。彼女たちと共に切磋琢磨しながら、時には息抜きをして、楽しく大きく保育士として成長していきたいと思っています。

◆２０２４年度各拠点園長・施設長

こぐま保育園	針尾　政幹
練馬区立向山保育園	中本　琢也
砧保育園	西田　健太
上北沢こぐま保育園	椎名　朝美
しろくま保育園	佐藤　博樹
永山小学童クラブ	中村　真理子
貝取学童クラブ	小山　牧子
永山学童クラブ	渡辺　智士
貝取小学童クラブ	岡　真理子
貝取小放課後子ども教室	今野　若葉（教室長）

第9回法人合同研究集会を終えて

法人研修委員会

2023年11月18日（土）「第9回多摩福祉会 保育・学童支援合同研究集会」が行われました。

今年はコロナ禍で培ったオンラインに加えて現地での参加も出来るハイブリット方式での実施を試み、延べ152名にのぼる参加がありました。こぐま保育園、向山保育園、砧保育園、上北沢こぐま保育園、永山学童クラブを会場として使用して各会場をｚｏｏｍでつなぎ、午前中は全体会として全参加者で一つの講演を共有しました。法人名誉理事に就任した伊藤亮子理事の表彰式、しろくま保育園の進捗状況の発表もありました。午後は各施設で分科会を実施。それぞれのテーマについて深め合いました。

伊藤亮子名誉理事

今回のハイブリット方式では、保育や育成がある職員や遠方の関係者など、現地参加が難しい方とも時間を共にすることができ、他法人からの参加者も迎えることができました。ｚｏｏｍ機能の操作や通信環境にいくつかの課題は残りましたが、概ね好評を得ることができ、研修委員一同安堵の気持ちで合研を終えました。

一昨年度50周年を迎えた法人が新たな歴史を刻み始め、この合同研究集会は来年第10回を迎えます。またコロナ禍をくぐり抜け、元に戻ると言うよりは新たな世界を創造し更に一歩ずつ前進していく過渡期でもあることから、今回の第9回のテーマを「つぎへつなぐ」とし、私たちの保育や児童育成を今後につなぐ合研にしたいと考え、準備を重ねて当日を迎えました。

◆全体会

2022年度の合研の感想やその後のアンケートから、保護者支援や人間関係への悩みが多いことが分かりました。そこで今回は東京都教育相談センター主任教育相談員 邑口（むらぐち）紀子先生をお招きし、実践を交えながら様々な人に対する支援や、自身のメンタルヘルスの保ち方などについてお話いただきました。若い職員はこれから経験するかもしれない場面を思い浮かべながら、今回の学びを生かして対応しようと決意したようです。また中堅層以上の職員はこれまでの対応を自身の実践に重ねて振り返ってみたり、講演を聞いて改めて対応方法を見出したりと有意義な時間となりました。

邑口紀子先生講演

◆分科会

上北沢こぐま保育園会場　テーマ「人権」

「人権」というとても深く広いテーマに取り組みました。永山小学童クラブの「性について考える」と砧保育園の「幼児期における愛着形成の大切さ」の二つの実践を通して意見交換を行いました。

「性」という、ともすれば蓋をして話し合うことを避けてしまうテーマでしたが、命そのものが奇跡の連続であることや、人間の営みそのものでもあること等が語り合われ、私達大人の学び直しの重要性と、一人一人の存在がいかに大切なものかを伝え続ける大切さが話されました。これは同時にもう一つの「愛着形成」の事例ともつながり、周りの私たちが「自分の思いを素直に伝えても良い」こと、「あなたは大切な人である」ことを、繰り返し伝え続けていこうと再確認しました。

「テーマの幅が広すぎて話し合うには時間が足りなかった。もっと語り合いたかった」という声もあがるほどあっという間でしたが、「これからも学び続け、考え続けていきたい」と決意を新たにする声が多く聞かれました。

向山保育園会場　テーマ「ことば」「アフターコロナ」

向山保育園にて、ことばの分科会とアフターコロナの分科会を行いました。参加者はことばの分

科会が 18 名、アフターコロナの分科会が 12 名でした。向山保育園は他の施設から離れた場所にあることもあり、はじめて訪問する方が多くいらっしゃいました。そのため約 30 分かけてしっかりと保育園内の見学を行い、部屋の説明だけでなく手作りおもちゃも見てもらうなど、園としても向山保育園を知っていただく良い機会となりました。

ことばの分科会では2つの実践を聞いてから、半分に分かれてグループワークを行いました。他施設での保育や子どもとの関わり方を聞くことができ、あっという間の2時間半でした。『ことば』の発達だけでなく、全身や情緒の発達、子どもの強みを伸ばす保育についてなど、幅広く考えを深めていきました。全体会の邑口先生の講演内容とも重なる部分があり、一人の子どもについて様々な視点を持ちながら考えていく貴重な時間となりました。

アフターコロナの分科会でも2つの実践を聞いたのち、討議を行いました。コロナ禍において保護者のため、子どもたちのために実践してきたことを共有でき、勇気づけられました。コロナによって制限されたこと、変化せざるを得なかったことがたくさんありましたが、ただ元に戻るわけではなく、変化の中で得た良いところを取り入れながら進化している新たな一歩を感じることができました。コロナをきっかけに、よりよい保育を求めていきたいと感じました。

こぐま保育園会場　テーマ「関わり」

貝取小学童クラブ、貝取学童クラブ、上北沢こぐま保育園それぞれの実践を全体で聞いたのち、3つのグループに分かれて交流をしました。

実践の発表があった施設で一緒に過ごしている職員から最近のこどもたちの様子を聞いたり、自分の施設で起こった同様の事例などを出し合うことができました。

こどもおとなも関わりながら悩み、支えあって成長していくことを再認識すると共に、他施設の話を聞くことで勉強になりました。また、各グループに伊藤名誉理事、安川理事長、垣内理事が参加され、貴重なお話やアドバイスもお聞きすることができて大変すてきな時間となりました。

砧保育園会場　テーマ「食」

給食の職員を中心に集まった『食について』の分科会。砧保育園に 26 名、Ｚｏｏｍで2名の計 28 名が参加しました。分科会の前には園内や給食室内の見学をしました。各園それぞれ特徴があるため、自園との違いにみんな興味津々でした。

実践発表ではクイズなどもあり、和やかな雰囲気の中で進んでいきました。その後、2つに分かれグループ討議になると、聞きたかったことや各施設の取り組みなどで話し合いが盛り上がり、まだまだ話し足りないといった様子でした。それぞれの施設でこだわってきた給食のことを発信して、もっと他の施設の職員にも伝わっていくと良いなと思います。

永山学童クラブ会場　テーマ「遊び」

遊びの分科会では総勢 14 名が集まり、おさんぽの実践を通して得た経験やあそびについて内容を深めました。おさんぽを実践した背景には、こぐま保育園が独自で行っている保育研という研修の中で、職員のみで初めての公園に行った経験や、自信に繋がった同期とのやりとりなどがあったとのことでした。

分科会では実践したときの反省や葛藤を話し合い、職員で共有しました。また、こぐま保育園が普段行っているおさんぽのコースを地図で見ながら話し合い、各施設が行っている研修内容を知る機会にもなりました。

実践報告後は2グループに分かれ、各施設のおすすめの遊具を持ち寄って実際に遊びました。職員も知らなかった遊具で遊んでみたり、同じおもちゃでも施設や年齢によって遊び方が違うことが分かったりと、遊具1つにもさまざまな発見があり、大いに盛り上がりを見せて分科会が終わりました。

しろくま保育園開園！

保育園したて

2024 年 3 月 20 日（祝）
園舎完成お披露目会

しろくま保育園開園！

しろくま
できま

しろくま保育園が
開園しました!!

練馬区谷原 5-16-38
TEL. 03-6913-3308

【連載第３回】新年度がはじまりました

私の両親は共働きではなく、母は専業主婦でした。そのため保育園ではなく幼稚園に通い、小学生になると学童クラブには縁もない少年でした。

そもそも時代なのか地域なのか、学童クラブを利用している友達もあまりおらず、放課後はみんなで遊ぶ約束をしては、学校の校庭や地域の公園で過ごしていました。今思えば小学生というものを謳歌していたのではないかと思います。

さて学童クラブでは1月になると、4月から1年生になる子どもたちの新入所面談をおこない、新年度に向けての準備が始まります。在籍の子ども達も次の学年に向けての準備が始まります。その準備に向けて、夏休み明けから冬休みの間にも様々な行事がありました。施設によって異なりますが、9月～10月頃には『おみせやさん』があり、12月は『お楽しみ会』、3年生は『卒クラブ遠足』などがあります。

新しく入った子どもたちは、4月から8月末の夏休みの終わりにかけて、学童クラブの人間関係、雰囲気など色々な事に慣れていきます。それらを経験した子ども達が、今度は自分たちで行事の計画を立てて、準備から当日の運営まで行います。このような、子ども達が自ら考えて行動する経験が、次の学年に向けての準備になるのです。

昨年度の貝取学童クラブのお楽しみ会は「子どもも大人も楽しむ会にしたい」と2年生の実行委員たちが目標を決めました。内容はドロケイをしたいとの事でしたが、学年で分けて子ども同士で対戦したり、子どもと大人で対戦したりと、戦い方も実行委員の子どもたちが企画しました。過去には運動会をしたり、映画会をしたり、その都度子どもたちが主体になって「やりたい」事を話し合い、行事を進めています。

連載～第３回～（全４回）
新年度がはじまりました

また「おみせやさん」では子どもたちがどんなお店を出したいかを考えます。準備の中で「ああしたい」「こうしたい」という思いを出し合い、時には「もういい！」と喧嘩になったりもします。不機嫌な様子なので話を聞こうと声をかけると「実は…」と事情をぽつりぽつり。意見の違いだったり、それぞれの思いがすれ違って上手く言えなかったりと様々な事が起きます。

また年間で決まっている行事以外にも、子どもたちから「ドッジボール大会したい」や「カード大会したい」と要望があれば一緒に企画していくこともあります。以前、子どもたちから「ダンス部を作りたい」と提案がありました。3年生を中心にポスターを作り、練習日を決めてメンバー募集をして12月のお楽しみ会での発表に向けて週2回練習すると計画を立てたことがありました。

しかし、実際は練習日に練習する気配がありません。見かねた大人が「大丈夫？」と声をかけてようやく活動したかと思うと、曲を決めるまでに2、3回話し合い、結局12月には間に合わず、ダンスの発表もないまま終わってしまいました。（1月末時点）

この経験が「失敗で終わり」なのか「失敗を糧に」なのかは、職員の働きかけや関わり方で大きく変わってくるのではないかと思います。大人と子どもが共有しながら取り組んでいくことが、より子どもたちの成長に繋がっていくのではないでしょうか。

学童クラブの職員として子どもたちと関わっていく中で、子ども自身が行事の『計画を立てる』『実行する』『結果どうなったか』を経験できるのは良い事だなぁと感じています。

新年度が始まり学童クラブは新しい仲間たちとにぎやかな時間を過ごしています。

筆者：中村　輝（なかむら　あきら）
2011年貝取学童クラブ入職、その後コロナ禍での施設長3年間を経験。現在は3児（小3女子、年長男子、2歳女子）のパパ。保育士の妻が昨年4月に育休復帰した事もあり家庭都合で施設長退任。毎日仕事・育児・家事に絶賛奮闘中！2024年4月からは保育士としてこぐま保育園に異動し、また新たな世界をワクワク経験中です。